

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	宮川君の『水素論』を読む：批評
Author(s)	
Citation	龍南會雜誌， 3 2： 4 4 - 4 5
Issue date	1894-12-21
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/4503">http://hdl.handle.net/2298/4503</a>
Right	

批 評

○宮川君の『水素論』を讀む

M、M、生

化學進歩の著しき、今や將に一大紀元を開かんとす。一大紀元とは何ぞ。即ち化學進化論(Evolution of Chemistry)之あり。歐米の學者皆進化論を是認するものゝ如し。ハックスレーは今日謂ゆる原素あるものと、物質の始原非分化的の体より進化せ來れること、尙ほ生物學よ於て、諸生体が唯一の始原体より進化し來れるが如きものあらんと説き。ノルマン、ロッキヤーは、白光星を以て其他の星より温度最も高きものと假定し、分光學上の觀察を於して曰く、『天狼星の如き白光星の零圍氣は殆ど水素のみにして、其他の温度低き星に至ては、水素よりも他物を有せると多し、之れ温度高けきば諸原素盡く熱の爲めに分解して水素となり、温度低ければ復た化合して他の原素とあるが如し、故に地球上の原素も太陽熱は尙ほ簡單あるものに分解すべし、』と。カーチレーは今日地球の原素あるものは Hydrocarbon Radicals と、對比的のものにして、少くとも二つ以上の絶對原素より成れりと論ず。要するに物体の温度漸次降下するに従て、物体の形體は益々永續し得べく、益々安定あるべきものと化し、不安定あるものは消滅し去りたるあり。此の如き説は目下化學等の通説にして、近時ヘルムホルツ及びビトムソンの物質渦動説と相携へて、益々強きを致すものゝ如し。

前きには無機物、有機物判然たる區別を失ひ、今又進化説の及ぶ所、如何なる變動を化學上に來すや知るべからず。此時に當て、原素間相互の縁類を研究するは最も重要なこととして、宮川君の『水素論』の如き、此道に志すものゝ爲めには益する所蓋し少々に非らざるべし。説の正確ある論を俟たずと雖ども、只君がパラチユムの水素を吸收する現象を合金々と云ふて、一言のオッククルーシヨン(パラチユムの水素を吸收するを名てオッククルーシヨンと云ふ)に及ばざるは、如何にや。凡そ合金なる

毫の如何ある作用に因て生ずるものあるやは、學者間一定の説あり、此曖昧ある合金としてオックスルーションを論ず、頗る疑しき所にして、スコットの如きは氣體の液に溶解する作用と同一あるものとせり。其他鐵は一酸化炭素を、インディアナバーは酸素を吸収し、同じくオックスルーションの作用を以て見れば、其合金たる益々疑はし。余輩は君がオックスルーションの名を出さずして、始終合金々と云ひたるを遺憾とす。蓋し初學者を惑すの恐あればあり。愚評多罪。

## 國民体力の増進に就て

村川 堅 固

(体育上の一考案を讀む)

前號、賀來教授の『体育上の一考案』は、淡々たる行文の裡、瞭くに教授が愛國の衷情を看取すべく、其論旨實に剴切にして、生等をして、近來の有用文字たるに感服せしめたり。因て予は聊かこゝに、平生の所思を據へ、會員諸氏の一讀を煩さんと欲す。

(一)日本國民の宿命と体力

我日本は東洋に於ける唯一の文明國あり。立憲の美政は、白哲人種の専有ありとの迷信は、日本あるが爲に破れ、世界文明の歴史は、ユリアン人種の歴史なりとの虚誇は日本あるが爲めに攪らるぬ。今や先進國の天職地責を完ふせんが爲めに、右手可憐韓國を提醒し、左手老朽支那を鞭撻し、瞳々として世界強國の疆場に逼れり。二十世紀以後の世界史は、日本の文明的濶歩を記さんが爲めに、其黃白人種最後の生存競争に於ける、優勝を記さんが爲めに、其半冊の餘白を供せざる可からず。此事や今に及んで、既に世界具眼者の認識する所、兎に角、日本が未來に於て、大に膨脹すべき宿命を有するは、今回征清軍れ連勝に徴するも、吾儕は之を信ぜざらんと欲するも得ず。(我陸軍の連勝は必然の勢に由れども、黃海々戰に於ける我艦隊希有の克捷は、實に不可思議中の不可思議あることは、松澤少機關士の我等に明言する所に非ずや。天祐の在る所、瞭として火を睹るが如し。)況んや之を世界史に